

Reports Web 製品版を使い始める

Reports Webには体験版と製品版があります。購入専用アプリのインストールや、Windowsレジストリへの登録は必要ありません。製品版には、ご購入時のメールアドレスを含む電子署名付きの `reports-web.license` が付属します。

目次

納品メールが届いたら	3
デザイナー・プレビューアを使う	3
自分のプログラムで使う	3
Pure Java	3
Pure Python	4
.NET／WPF	4
WASM／7言語のWebアプリで使う	4
体験版の表示が残る場合	5

納品メールが届いたら

1. メールに記載された対応パッケージとライセンスZIPをダウンロードします。
2. 両方を展開します。ライセンスZIPの中にある `reports-web.license` は編集せずに使用してください。
3. 以下のうち、ご利用になる方法に従って配置します。

ライセンスはJava用・Python用などに分かれていません。同じ製品ライセンスを、使用許諾の範囲内で各方式に使用します。開発用・実行用に別のライセンスを使い分ける必要もありません。

デザイナー・プレビューアを使う

展開した製品パッケージの **はじめに.html** と同じフォルダーに `reports-web.license` を置き、デザイナーやプレビューアを起動し直します。Java・Python・WPFの各ツールは、パッケージ内の `package-profile.json` を目印に、このライセンスを読み込みます。

```
Reports-Web-All-in-One/    ← 分割版では、その展開先フォルダー
├─ はじめに.html
├─ package-profile.json    ← 同梱済み。変更不要
├─ reports-web.license     ← 納品されたファイルをここへ追加
├─ Settings/
└─ Native/
```

Macの `.app` 内部に入れる必要はありません。アプリ内部を変更すると署名が壊れるため、変更しないでください。起動済みの別のツールにも反映するには、そのツールを終了して起動し直します。

自分のプログラムで使う

SDKを別のプロジェクトにコピーして使う場合は、帳票を作る前にライセンスを読み込みます。ファイルの場所はアプリケーションに合わせて指定してください。ライセンスは帳票定義や印刷データに埋め込むものではありません。

Pure Java

```
import com.pao.reports.engine.licensing.ReportsProductInfo;
import java.nio.file.Path;

ReportsProductInfo.loadLicense(Path.of("config", "reports-web.license"));
String purchaserEmail = ReportsProductInfo.getLicenseEmailAddr();
// この後、いつでもどおり帳票の読込・データ設定・出力を行います。
```

Pure Python

```
from pao_reports import load_license, get_license_email_addr

load_license("config/reports-web.license")
purchaser_email = get_license_email_addr()
# この後、いつもどおり帳票の読込・データ設定・出力を行います。
```

.NET/WPF

```
using Pao.Reports.Maui.Engine.Licensing;

ReportsProductInfo.LoadLicense(@"config\reports-web.license");
string purchaserEmail = ReportsProductInfo.GetLicenseEmailAddr();
// この後、いつもどおり帳票の読込・データ設定・出力を行います。
```

.NET Framework互換版と.NET 10版で、この呼び出し方は同じです。Reports Web配布用SDKを使用してください。

サーバーなどでコードを変更せず指定する場合、起動前に環境変数 `PAO_REPORTS_LICENSE_FILE` にライセンスの絶対パスを設定する方法もあります。これはJava・Python・.NETおよび同梱のNode.js帳票サーバーで使えます。

WASM/7言語のWebアプリで使う

PHPなどのラッパーは帳票データを作り、ブラウザーや同梱Node.jsサーバーのWASMエンジンが帳票を出力します。ライセンスは、ラッパーの言語ごとではなく、**実際に帳票を出力する側** に置きます。

出力する場所	ライセンスの配置
ブラウザーのデザイナー／プレビューア	配信する <code>index.html</code> ・ <code>previewer.html</code> と同じURL階層へ <code>reports-web.license</code> を置きます。
同梱Node.jsサーバー	<code>server.mjs</code> と同じフォルダーへ置くか、 <code>PAO_REPORTS_LICENSE_FILE</code> で指定します。Dockerの場合はそのファイルをコンテナ内へ読み取り専用でマウントし、コンテナ内のパスを指定します。

独自のブラウザーアプリで `WasmEngine` を使う場合は、`load()` の完了後、`await engine.loadLicense`(ライセンスファイルの文字列) を呼びます。検証が完了してから帳票を出力してください。購入者メールアドレスは `engine.getLicenseEmailAddr()` で取得できます。ブラウザーで署名検証する環境はHTTPS、または開発時のlocalhostを使用してください。

ブラウザーへ配信するライセンスは閲覧者が取得できます。購入者メールアドレスを秘密情報として隠す仕組みではありません。ご自身のメールアドレスを含む製品ファイルとして、使用許諾に従ってお取り扱いください。

体験版の表示が残る場合

- 納品メールに記載された対応パッケージを使っていますか。以前の体験版には、このファイルを読み込む機能がありません。
- ファイル名が `reports-web.license.txt` などになっていませんか。
- 起動済みのデザイナー／プレビューアーを起動し直しましたか。
- Webでは、ブラウザー側とサーバー側のうち、今回出力している側に配置しましたか。
- ファイルを編集していませんか。内容を変更すると署名検証に失敗します。

明示的に読み込むAPIは、不正なライセンスをエラーとして通知します。有効なライセンスがなければ体験版のままです。解決しない場合は、ご注文時のメールアドレスと利用方式を添えて info@pao.ac へご相談ください。ライセンスを公開の質問サイトへ貼り付けないでください。